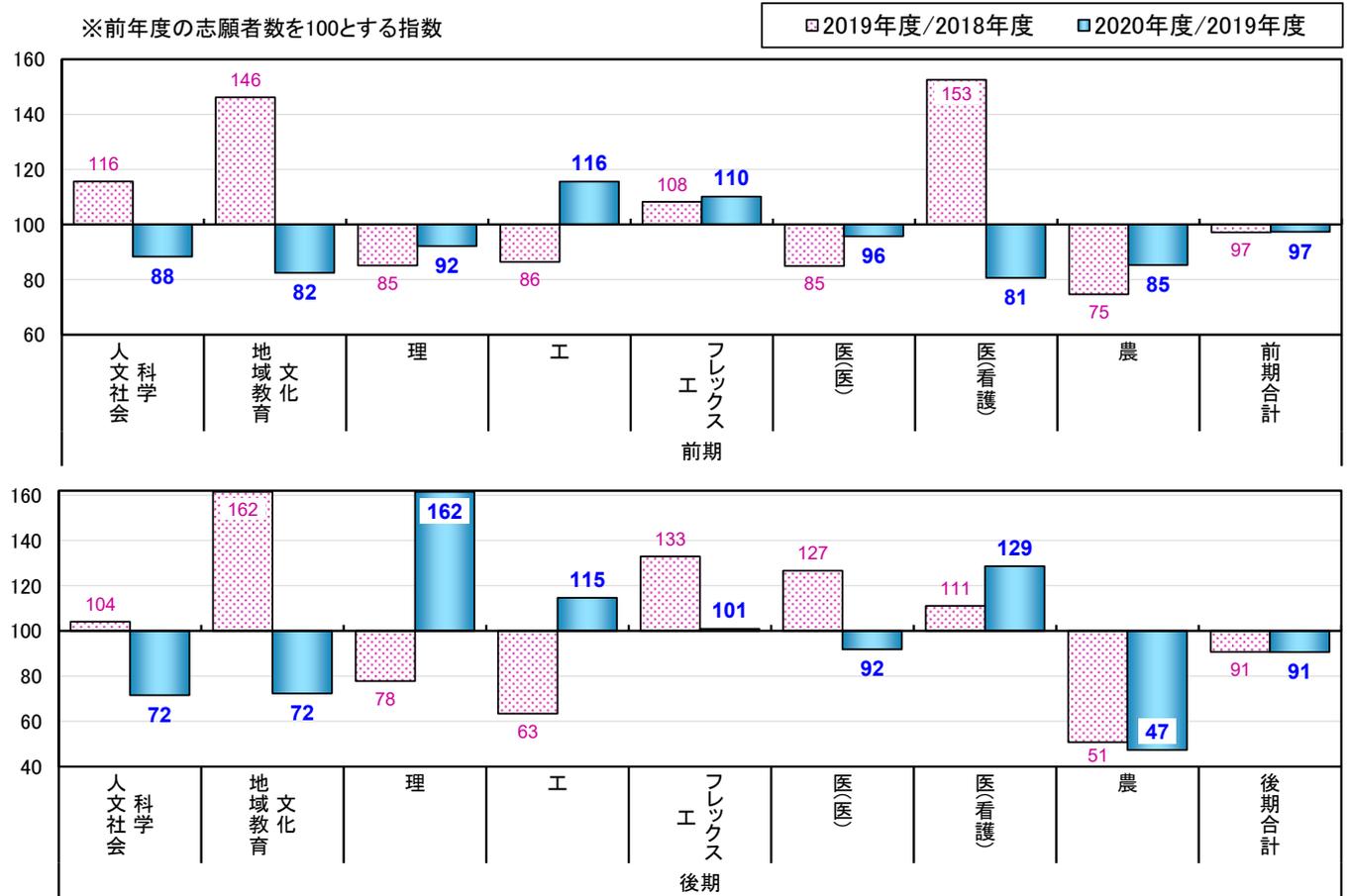


2020年度入試状況分析【国公立大】

山形大：前期は改組後3年連続減少、後期は2年連続減少

前期：-71人 後期：-142人



入試変更点

選抜方法：医(医)〈前〉…地域枠→山形県定着枠 ※名称変更
 募集人員：工(高分子・有機材料工)〈前〉…88人→83人
 (機械システム工)〈前〉…88人→87人
 (建築・デザイン)〈後〉…6人→5人
 (化学・バイオ工/応用化学・化学工)〈前〉…43人→41人
 (化学・バイオ工/バイオ化学工)〈前〉…43人→41人
 医(医)〈前〉…(一般枠)65人、(地域枠)10人→65人 ※山形県定着枠含む
 センター：(化学・バイオ工)〈前〉…国<100点>+歴公<100点>+数2<300点>+理2<300点>+外<200点>=総点<1,000点>
 →国<200点>+歴公<100点>+数2<200点>+理2<200点>+外<300点>=総点<1,000点>
 第1段階選抜基準変更：医(医)〈前〉…約4.5倍(通過予定人数:338人)→約5倍(通過予定人数:325人)

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は71人(97)のやや減少で、2017年度の改組後、翌年度から3年連続減少。工フレックス(110)を除いても同様。後期は142人(91)の減少で2年連続減少。工フレックス(101)を除くと、(90)の減少で2年連続減少。

<前期日程>

- 人文社会科学(88)は、2年連続増加の反動で減少。学科・コース別では、(人文社会科学/総合法律・地域公共政策・「経済・マネジメント」)(80)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。一方で、(人文社会科学/グローバル・スタディーズ)(111)は増加で、2017年度の改組後最多の志願者数。
- 地域教育文化(82)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別・コース別では、(地域教育文化/文化創生)(99)は前年度並だが、(地域教育文化/児童教育)(71)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 理(92)は、前年度の大幅減少に引続き減少。2017年度の改組後最少の志願者数。
- 工(116)は、前年度減少の反動から大幅増加。学科・コース別では、(情報・エレクトロニクス/電気・電子通信)(141)、(高分子・有機材料工)(124)、(化学・バイオ工/バイオ化学工)(123)は大幅増加。一方で、(建築・デザイン)(54)は半減近い大幅減少。
- 医(医)(96)は、募集人員の減少もあって、やや減少で4年連続減少。ただし、志願倍率は3.8倍→4.2倍にアップし、競争は激化した。
- 医(看護)(81)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。センター試験重視の配点のため、センター試験の平均ダウンも影響。
- 農(85)は、系統への人気が高いことから、2年連続大幅減少。

2020 年度入試状況分析【国公立大】

<後期日程>

- 人文社会科学(72)は、大幅減少で2年ぶり減少。学科・コース別では、(人文社会科学/総合法律・地域公共政策・「経済・マネジメント」)(55)は前年度大幅増加の反動と系統への低い人気から、半減近い大幅減少。(人文社会科学/人間文化)(96)はやや減少だが、3年連続減少で志願者数は100人を下回り、2017年度の改組後最少。
- 地域教育文化(72)は、大幅減少で2年ぶりの減少。学科別・コース別では、(地域教育文化/文化創生)(57)は大幅減少、(地域教育文化/児童教育)(87)も10%以上の減少。
- 理(162)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。志願者数は140人を上回り、改組後最多。
- 工(115)は、前年度大幅減少の反動から大幅増加。2017年度の改組後は大幅増減が継続。学科・コース別では、大幅な増減に分かれており、(情報・エレクトロニクス/電気・電子通信)(211)は倍以上、(情報・エレクトロニクス/情報・知能)(179)、(化学・バイオ工/バイオ化学工)(175)は大幅増加、一方で、(建築・デザイン)(33)は3分の1に減少、(化学・バイオ工/応用化学・化学工)(66)、(高分子・有機材料工)(72)はいずれも大幅減少。
- 医(医)(92)は、前年度大幅増加の反動と個別試験は面接のみなので、センター試験の平均点ダウンの影響で減少。
- 医(看護)(129)は、大幅増加で2年連続増加。
- 農(47)は、系統への人気は低く、個別試験がないことからセンター試験の平均点ダウンの影響が大きく、2年連続約半減の大幅減少。